

敦煌の千佛洞について

(敦煌の千佛洞の由來に關する質問に應じて草した、短い一篇である)

珍らしい多くの佛教美術の資料と、萬を以て數ふる記録や古書の出現等で、今世紀の初め以來、頓に有名になつた敦煌^一詳しく言へば支那の甘肅省安肅道敦煌縣城の東南、約我が四里許り^二の千佛洞の事は、ずっと古くから書物にも記され、文人墨客の詩文の題材にもなつたもので、決して近頃の發見といふやうな事實では無いのであるが、兎角にあつさりとした抽象的記事に満足しやうとする東方の學者の筆のすさび位では、まだ大に世人の注意を喚起するに足りなかつたのが、歐洲諸國の學界で簡派した斯道の學者の努力によつて、精巧な圖版や、綿密な解説が公けにせられ、人をして親しく之を目睹せしむるかの如き感あらしめて以來、俄にその價值が認められ、喧傳せられることに成つたものである。

此の佛洞の創始については、近頃その地方に於てはよくも知られないものと見えて、前清道光年間に出來た敦煌縣志とか、光緒の末近くに成つた甘肅通志などには、皆その創始を不明として居る、即ち前者には、「千佛洞在城(敦)南四十里、不知建自何時、有斷碑云、唐年重修」と記し、後者には、「佛洞創始未詳、有斷碣云、唐某年重修」と見えて居る。併し千佛洞には此等の書に謂ふ所の斷碑以外に、別に武周の聖曆元年(698 A. D.)に建てられた